

## 令和7年度 大学院留学生 修了証授与式

### 2025/2026 Certificate Award Ceremony



「International Postgraduate Program」で受け入れた留学生の研修期間が終わり、2026年3月2日、令和7年度大学院留学生修了証授与式および懇親会が上條記念館で開催されました。

式典では、宮崎隆国際交流センター長の開会挨拶の後、留学生の母国の駐日大使館関係者や指導教員が見守る中、研修を修了した6名に、上條由美学長より修了証が授与されました。留学生代表として、中国出身で歯学部口腔生化学講座に所属したXue Fei先生が、昭和医科大学での1年間の学びと経験、そして帰国後の抱負について、日本語も交えて挨拶を行いました。最後に工藤芳子国際交流副センター長の挨拶で修了証授与式を終えました。



続く懇親会では、松山高明教授（医学部・医学研究科国際交流委員長、法医学講座）による乾杯の発声の後、留学生および指導教員らによるスピーチが行われ、参加者同士が和やかに交流を深めました。最後に国際交流センター土屋静馬教授の挨拶で盛会のうちに終了しました。

修了した6名は帰国後、それぞれの国の教育機関等において教育・研究・診療に従事する予定です。

本学は今後も留学生の受け入れを積極的に進め、国際交流活動の一層の充実に取り組んでまいります。



## 2025年10月～2026年3月 International Fellow受け入れ報告

昭和医科大学では2週間の短期から1年間の長期のInternational Fellowの受け入れを多くの部署で行っています。2025年度後半に受け入れいただいた部署のご紹介です。

研究科	受け入れ部署	国籍	在籍機関	受入れ機関
医学研究科	顕微解剖学	中国	吉林大学 白求恩第二附属病院	2025年4月1日～ 2026年3月31日
	生体制御学	中国	揚州大学	2025年4月21日～ 2026年3月31日
	呼吸器・アレルギー内科学	モンゴル	モンゴル国立第一病院	2025年5月7日～ 2025年10月21日
	心臓血管外科学	中国	河南中医药大学第一附属病院	2025年12月11日～ 2026年3月25日
	整形外科	マレーシア	マラッカ総合病院	2026年1月14日～ 2026年2月28日
	整形外科	ポルトガル	サント・アントニオ大学病院センター	2026年3月2日～ 2026年3月27日
	小児内科学	台湾	長庚記念病院	2025年4月1日～ 2026年6月30日
	小児内科学	バングラデシュ	国立神経科学研究所・附属病院(ダッカ)	2025年9月1日～ 2025年11月30日
	小児内科学	バングラデシュ	ウバジラ ヘルスコンプレックス(ダッカ)	2025年10月6日～ 2025年12月31日
	小児内科学	バングラデシュ	国立神経科学研究所・附属病院(ダッカ)	2025年11月17日～ 2026年1月30日
	集中治療医学	韓国	韓国カトリック大学医学部 ソウル聖母病院	2025年8月1日～ 2026年7月31日
	国際消化器内視鏡研修センター (横浜市北部病院)	ブータン	ゲレフ中部地域中核病院	2025年4月16日～ 2025年12月15日
	消化器センター (江東豊洲病院)	フィリピン	セント・ルークスメディカルセンター	2025年4月1日～ 2026年3月1日
	消化器センター (江東豊洲病院)	ベトナム	ベトナム国立癌病院	2025年10月1日～ 2026年3月31日
	消化器センター (江東豊洲病院)	ベトナム	ベトナム国立癌病院	2025年9月22日～ 2025年11月26日
	歯学研究科	歯科理工学	中国	天津医科大学 腫瘤病院
口腔生化学		中国	四川大学 華西口腔医学院	2025年4月1日～ 2026年3月31日
歯科矯正学		マダガスカル	アンタナナリボ ベーシックヘルスセンター	2025年4月23日～ 2026年3月31日

## 富士吉田オープンキャンパス 国際交流センターブース



2025年11月29日、富士吉田キャンパスのオープンキャンパスで初めて国際交流センターが個別相談のブースを設けました。ブースでは学生やその保護者が予約不要で国際交流センターの教員と相談できるようにしました。来場者から海外選択実習の施設、実習費用、参加者の選考方法などに関する質問をいただきました。大好評でしたので、来年のオープンキャンパスでも開催する予定です。

## Oxford Hertford College Carolineさん来校



2026年1月23日、オックスフォード大学ハートフォード・カレッジ（英国）International Programmes部長のCaroline Rice氏が本学を訪問しました。2025年度より開始したハートフォード・カレッジでの1年生向け夏期選択実習「初年次スタディアブロードプログラム」の2026年度のスケジュールや内容について

話し合いをしました。2025年度と同プログラムは大変好評を得ましたが、2026年度はより学生のニーズに沿った内容となるよう、意見交換を行いました。

## カザフスタン共和国 大統領府医療センター来訪

2025年12月16日、カザフスタン共和国大統領府医療センターのジャンドス・テミルハンウリ・ジュマベコフ副所長ほか3名が、上條学長を表敬訪問されました。訪問団は、学長への表敬訪問の後、国際交流センターにて宮崎副学長と歓談し、本学の国際交流活動等について紹介を受けました。続いて、佐藤教授および高橋准教授の案内により、脳機能解析・デジタル医学研究所を



視察しました。今回の訪問を機に、今後は研究活動を中心とした交流活動のさらなる発展が期待されます。

## 薬学部 百賢二准教授 ワライラック大学 国際会議参加

2026年2月18日ワライラック大学（タイ）薬学部にて国際会議“From Molecular Innovation to Patient Impact”が開催されました。昭和医科大学から薬学部病院薬剤学講座 臨床研究部門 / 統括薬剤部 / 薬学部・薬学研究科国際交流委員准教授 百賢二先生が参加し、“How to create impact research using big data, epidemiological data, and patient data”をテーマに講演を行いました。

今回の参加は、2025年7月31日にワライラック大学薬学部 Chaweewan Klongsiriwet 薬学部長ら4名が本学を訪問された際、是非講演をして欲しいと招待されたものです。

会議後には、本学の薬学部・薬学研究科国際交流委員会の先生方がオンラインで参加し、ワライラック大学薬学部の先生方とのミーティングを実施し、両大学の協力関係を一層強化する貴重な機会となりました。



## タシケント国立医科大学から 訪問を受けました

2025年12月4日にウズベキスタン共和国のタシケント国立医科大学チルチク校よりスルタノフ・ガフルドジョン校長らの表敬訪問を受け、工藤副センター長らが会談しました。先方から日本語を交えた大学紹介をいただいたのち、本学からはInternational Fellowの受入れシステムを紹介し、今後の研究活動や臨床研修などの交流の可能性に関して意見交換を行いました。2019年に平泉先生らが在日本ウズベキスタン大使館主催の文化交流会に参加したご縁があり、当時の写真をご紹介しながらテーブルで日本式のお茶を淹れて歓迎したところ、日本文化を感じると、とても喜んでいただきました。



## オーバーン大学薬学部 Salisa Westrick先生来訪

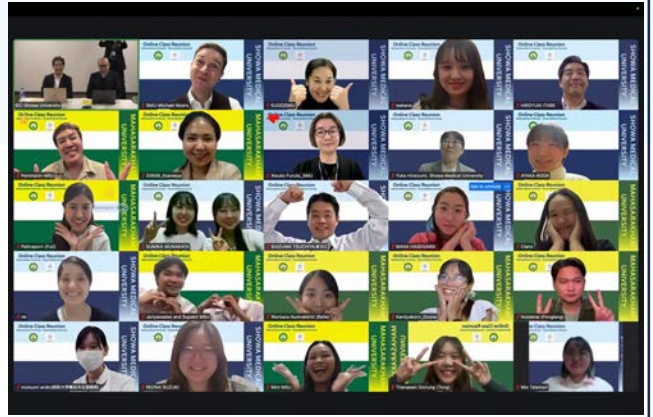
2026年3月25日オーバーン大学（米国）薬学部からSalisa Westrick教授が昭和医科大学薬学部を訪問されました。薬学部から、原俊太郎薬学部長、加藤大薬学部・薬学研究科国際交流委員長、板部洋之教授ら5名が出席して相互の大学および薬学部の海外実習・研修の紹介に続き、大学病院やキャンパスツアー、今後の交流の可能性について話し合いを行いました。



## 昭和医科大学・マハサラカム大学薬学部オンライン同窓会

昭和医科大学とタイのマハサラカム大学（MSU）とは2008年に薬学部間で協定を締結して以来、毎年学生の派遣および受け入れを行っています。2025年までの参加者が集まり、研修の成果が現在の生活にどのように影響したかを報告し合うために2025年1月28日にオンライン同窓会を開催しました。本学から25名、MSUから17名の学生および教職員が出席しました。

当日は、加藤大薬学部・薬学研究科国際交流委員長の開会の挨拶に続き、双方の参加者が実習・研修の思い出と近況を報告し、現在の仕事について発表しました。その後、クイズコーナーやブレイクアルートルームに分かれての歓談を行い交流を深めました。最後は、MSUの Pemmarin Potisarach教授による閉会の辞をもって、盛況のうちに終了しました。これからも昭和医科大学とタイ間の架け橋となる交流を継続していきます。



## 医学部・保健医療学部プリンス・オブ・ソクラー大学との協定締結

プリンス・オブ・ソクラー大学医学部（ハートヤイ）は、タイ南部における教育・研究の中核を担う国立総合大学の医学部です。本学はこのたび、同大学医学部および保健医療学部と学部間協定を締結し、医学およびリハビリテーション学領域を含む医療系教育における国際連携を正式に開始しました。本連携は、学生交流や教育・研究の発展を通じて、グローバルに活躍できる医療人材の育成に寄与することが期待されます。



小風医学部長、上條学長、宮崎センター長



加賀谷教授、鈴木保健医療学部長、田中教授

## 医学部：海外臨床実習のさらなる充実に向けて - 欧州協定校3校の視察・協議

医学部および国際交流センター（松山高明教授、土屋静馬教授）は、欧州のルーマニア、ドイツ、ハンガリーの協定校3校を訪問し、医学生の実習の受入体制や教育環境の視察、ならびに国際交流のさらなる発展に向けた協議を行いました。各校で医学教育の様子や医療の現場を実際に見学しながら意見交換を重ね、海外臨床実習の質をより高めていくための多くの協議をしました。今後の学生・教員の交流のさらなる広がりに向けて貴重な訪問となりました。



ルーマニアのカロル・ダビラ大学医学部は150年以上の歴史を有し、同国の医療者教育を牽引してきた中核的医療系大学。高度な医療施設や先進的なシミュレーション教育を備え、実践的な医学教育が行われています。英語プログラムや留学生支援体制も充実、国際的な環境の中で基礎と臨床を統合的に学び、実践力を高めることができる魅力的な実習先です。

ドイツのHDZ NRWは、心臓移植年間約80例（累計約3,000例）、心臓外科手術年間約3,500例を誇る世界有数の高度専門医療センターです。最先端の医療に触れながら学べる教育環境が整っており、日本人医師による指導や留学生支援体制も充実。高度専門領域における臨床経験を通じて、専門性と実践力を大きく高めることができる、魅力的な実習先です。

ハンガリーのセンメルweis大学医学部は「産褥熱の予防に手洗いの重要性を提唱したイグナツ・センメルweis」に由来する、「東欧を代表する伝統ある医療系大学」です。欧州における臨床・教育・研究の中核を担い、英語による臨床実習も体系的に整備。世界各国から留学生を受け入れ、国際的な環境の中で高度な臨床能力を養うことができる施設。

## 国際交流セミナー ハワイ大学 町 淳二 教授 講演会

2026年1月29日、国際交流センター主催国際交流セミナーを開催いたしました。今回は、ハワイ大学医学部国際医療医学オフィス日本担当部長で、ハワイ医学教育プログラム開始・責任者である町 淳二教授にお越しいただき、米国での医療や教育、日本人留学の現状や課題についてご講演いただきました。

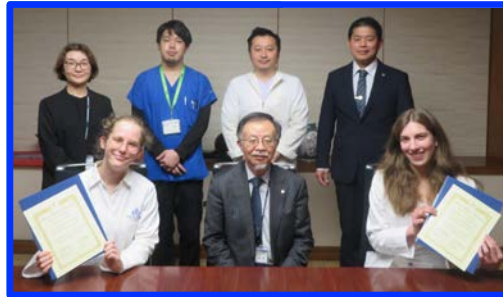
ご講演では、町教授のこれまでのご経歴を交えつつ、アメリカで医療者として道を切り開くために必要な姿勢や準備についてお話しいただき、参加者にとって、将来のキャリアを考える上で非常に有意義な機会となりました。



## 学部留学生受け入れ報告 1~3月

1~3月に学部留学生をご指導くださった部署のご紹介です。皆様ご指導・ご協力ありがとうございました。

学部	学生受け入れ部署	在籍機関(国・地域)	人数	受け入れ期間
医学部	江東豊洲病院 消化器センター	ニューサウスウェールズ大学 (オーストラリア)	1名	2026年1月5日~ 2026年1月31日
	昭和医科大学病院 消化器内科学	センメルweis大学 (ハンガリー)	1名	2026年3月2日~ 2026年3月27日
	昭和医科大学病院 循環器内科学	センメルweis大学 (ハンガリー)	1名	2026年3月2日~ 2026年3月27日
歯学部	歯科理工学	天津医科大学 (中国)	1名	2026年1月26日~ 2026年3月25日
薬学部	薬学部交換留学	台北医学大学 (台湾)	1名	2026年1月13日~ 2026年2月10日
	薬学部交換留学	マヒドン大学 (タイ)	2名	2026年1月26日~ 2026年3月6日

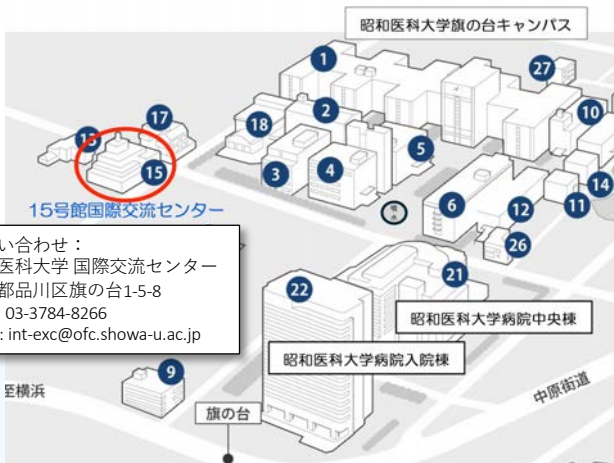


## 料理サークル

昭和医科大学料理サークルでは、International Fellow に母国の料理を披露していただき、世界各国の料理を体験できる場として、2012年1月より活動を続けています。

2025年12月3日には「第44回 中国料理」を開催し、生理学講座 生体制御学部門 客員教授の郭 試瑜先生をはじめ、中国からのInternational Fellowの皆さんに餃子の作り方や中国の伝統料理についてご紹介いただきました。

当日は、他の国からの学部留学生やInternational Fellow、本学学生も一緒に水餃子を包む体験を行い、和やかに楽しく、美味しい会となりました。



お問い合わせ：  
昭和医科大学 国際交流センター  
東京都品川区旗の台1-5-8  
電話: 03-3784-8266  
Email: int-exc@ofc.showa-u.ac.jp

## 編集後記

🍀 昭和大学から昭和医科大学に名前が変わり、1年が経ちました。

まだ「昭和医科大学」や“Showa Medical University”と自己紹介することに言い慣れないこともございますが、より多くの方にShowa Medical Universityの名を覚えていただけるよう、2026年度も引き続き国際交流活動に励んでいきたいと存じます。

今後とも皆さまのお力添えを賜りながら、より良い活動を続けていければ幸いです。(古田厚子)